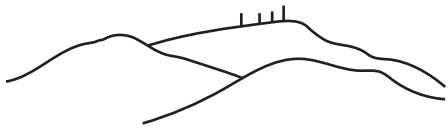


Youth Manna

2021/11/22 - 11/28



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/11/22(月)

ローマ 12:9-21

イエス様を愛している人のあるべき生き方がここにある。イエス様は、自分に良くしてくれる人や愛を示してくれる人だけでなく、自分に敵対してくるような人も愛しなさいと命じたね。パウロは、自分で復讐してはいけないと言っている。僕らがすべきは呪うことではなく、祝福し、愛すること。

僕らだけでは出来ないけれど、イエス様の愛が僕らの心にある時に、どんな時でも愛を示したイエス様に倣う者とされる。

●どんな時に愛することが難しいと感じるかな？

●「愛する」とは思いだけでなく、行動の伴うこと。どのように愛を示せるか、考えて実行しよう！

2021/11/23(火)

ローマ 13章

みんなの上を立てられている権威とは誰のことだろう？まずはみんなの両親だね。そして、国のリーダーたち、学校の先生、教会の牧師先生やHCリーダーもそうだね。すべての権威は神様から与えられているものと1節に書いてある。だから、権威には従うようにとパウロははっきり言っている。

両親に対するみんなの態度はどうだろう。尊敬の心を持って従えているかな？学校の先生のことを悪く言ったりしていないだろうか。牧師先生が言うことをどれだけ真面目に聞いているかな？

相手を見て従うことのできる人かどうかを自分で決めるのではなく、神様がその人に与えているものに目を留めよう！今日もイエス様の愛を表そう！！

2021/11/24(水)

ローマ 14:1-12

「主のために生き…、主のために死に…」(8)と強調されている。これは、主イエスキリストが私たちのために命を捨ててくださったからこそ、キリストを信じるものは罪の支配から解放されて、キリストの命のうちに生きることが出来るからである。キリストの十字架と復活は、私たちが主とともに歩むためのものであることがわかる。また、「それぞれ自分の心のなかで確信を持ちなさい」(5)と勧められている。これは、一人ひとりの内に生きておられる主を意識し、応答して生きることである。

私のために十字架で死なれ、復活してくださったイエス様のために生きることが告白し、祈ろう！

2021/11/25(木)

ローマ 14:13-23

今日の箇所では飲食に関する問題が取り上げられている。教会の中で考えの違いがあって、ある人の行動が他の人をつまづかせていたということがあったんだ。

僕らの周りと言えば、例えばお酒に関してはそれぞれ意見が分かれることが多いし、遊び方や、スマホの使い方なども色々な考え方があることかもしれないね。

20節を読もう。大切なのは、僕らの行動や態度が、互いへの愛から出ているかどうかということなんだ。僕らにはたくさんの自由が与えられているけれど、もし自分の行動で他の人が罪の誘惑にあたり、神様への純粋な思いが削がれるような結果になっていたら残念なことだ。自分が信仰を持って歩むことが大事なのも同じように、他の人がそのようであることも同時に大切にしていこう！迷ったらいつも基準をイエス様に置いて歩もう！！

2021/11/26(金)

ローマ 15:1-13

僕らは一人でクリスチャンをやっているのではないし、教会は一人では成り立たない。君の持っている影響力というのは、自分が思っているよりずっと大きなものなんだ。君の笑顔一つで周りの人が幸せになることもあるし、君の気遣い一つで愛が流れることもある。自分さえ良ければ良いという考えではなく、神の家族の中で、周りの人を大切に、互いの違いを受け入れて尊重することが大切なことだね。

ユースHCにも色々な人がいるね！僕らが集まる時も、みんなにとって良いと思うことを心がけよう！互いの存在を心から感謝しよう！

●今日はユースHCのメンバーのために祝福のお祈りしよう！

2021/11/27(土)

ローマ 15:14-21

パウロが自分の歩みと働きを証しつつ、そのすべてが神様の恵みからきているということをはっきりとここで伝えているね。

異邦人のためにキリストに仕える者となったのは神様の恵みから。だからその働きについてパウロはキリストにあって誇りに思っているんだ。そして18節でキリストが自分をを用いて成し遂げたこと以外は語らないと言っている通り、その働きは自分の力ではないことを受け取っているんだね。

私たちが今イエス様から与えられている働きはなんだろう？その働きを自分の力ではなく、イエス様と一緒に誇りをもってできるように祈ろう！

2021/11/28(日)

ローマ 15:22-33

ここの箇所では、パウロはこれから先の計画について書いた後、自分のために力を尽くして祈ってほしいと願っています。

その内容は、自分に与えられた務めを果たし、ローマに行くことができるようにということでした。パウロは、自分のはたらきが、多くの人の祈りがなくては成し得ないものだとわかっていたんだね。

主の御名で祈ることは、神と人との間に入る者、祭司としての務めの中心です。私たちも、誰かのために祈るときに、祭司としてののはたらきが任せられています。

パウロのはたらきのために祈ってくれる人たちがいました。あなたは、何のために、誰のために祈るはたらきが任せられているのでしょうか。静まり、今自分が何のために祈ったら良いのか、神様に聞いてみよう。そして、主の御名によって祈ろう！